

いつか晴れた日に

Sense and Sensibility

鑑賞日：2016・7・11

制作 1995年 米・英映画 上映時間 136分
監督 アン・リー
原作 ジェーン・オースティン
脚色 エマ・トンプソン
主演 エマ・トンプソン、ケイト・ウィンスレット、ヒュー・グラント
受賞 アカデミー脚色賞 (エマ・トンプソン)

(あらすじ)

19世紀初頭、イングランド南西部サセックス州、私領ノーランド・パークの主、貴族のヘンリー・ダッシュウッドは臨終の席で、先妻の息子ジョンに後妻のダッシュウッド夫人と3人の娘たちの世話を託して死ぬ。ジョンは彼女たちの世話をしようとするが、強欲な妻のファニーの反対で、その約束は反故となる。ファニーは屋敷に乗り込むと主人風を吹かせ、ダッシュウッド夫人らを追いたてようとする。分別のある長女のエリノア (E・トンプソン) は礼儀を尽くすが、多感な次女のマリアンヌ (K・ウィンスレット) は嫌悪の表情を見せ、お転婆な三女のマーガレット (エミリー・フランソワ) は隠れているばかりである。そんな折、ファニーの弟のエドワード・フェラス (ヒュー・グラント) がパークを訪れる。礼儀正しく控えめなエドワードにエリノアは心惹かれ、二人は親密の仲となる。二人の結婚を夢見るダッシュウッド夫人だったが、ファニーが夫人を侮辱したため、怒った夫人は従兄のジョン・ミドルトン卿の申し出を受け、3人の娘と共に彼のコテージに移り住んだ。ミドルトン卿と義母のジェニングス夫人の歓待を受けて、母娘はつましい暮らしを始める。そこへジョン卿の親友で隣のブランドン大佐 (アラン・リックマン) が来訪し、一目でマリアンヌに心を奪われる。ところが、散歩の途中に転倒して足を捻挫して救いを求めるマリアンヌを助けたジョン・ウイロビー (グレッグ・ワイズ) にマリアンヌは恋の虜になった。一方、エリノアはエドワードがいつコテージを訪れるか心待ちにしているが、音沙汰はない……

(解説)

18世紀の女性作家ジェーン・オースティンが1795年に発表した小説『分別と多感』の映画化である。脚色は本映画で主演を務めたエマ・トンプソンが行い、彼女は映画の脚色は初挑戦であるにもかかわらず、第68回アカデミー脚色賞を女優として初めて受賞した。主要キャストも彼女の人選で英国を代表する映画、舞台の俳優が集結した。監督はニューヨーク・インディーズの旗手である台湾出身のアン・リーを起用した。19世紀初頭の英国の厳しい階級社会で不当に差別される女性たちを描いた映画であるにもかかわらず、観終わった後の印象が明るいのは、女性たちの恋の歓びを前面に打ち出した、E・トンプソンの功績であろう。監督のアン・リーも軽快な演出で、人間味溢れる作品とした。